

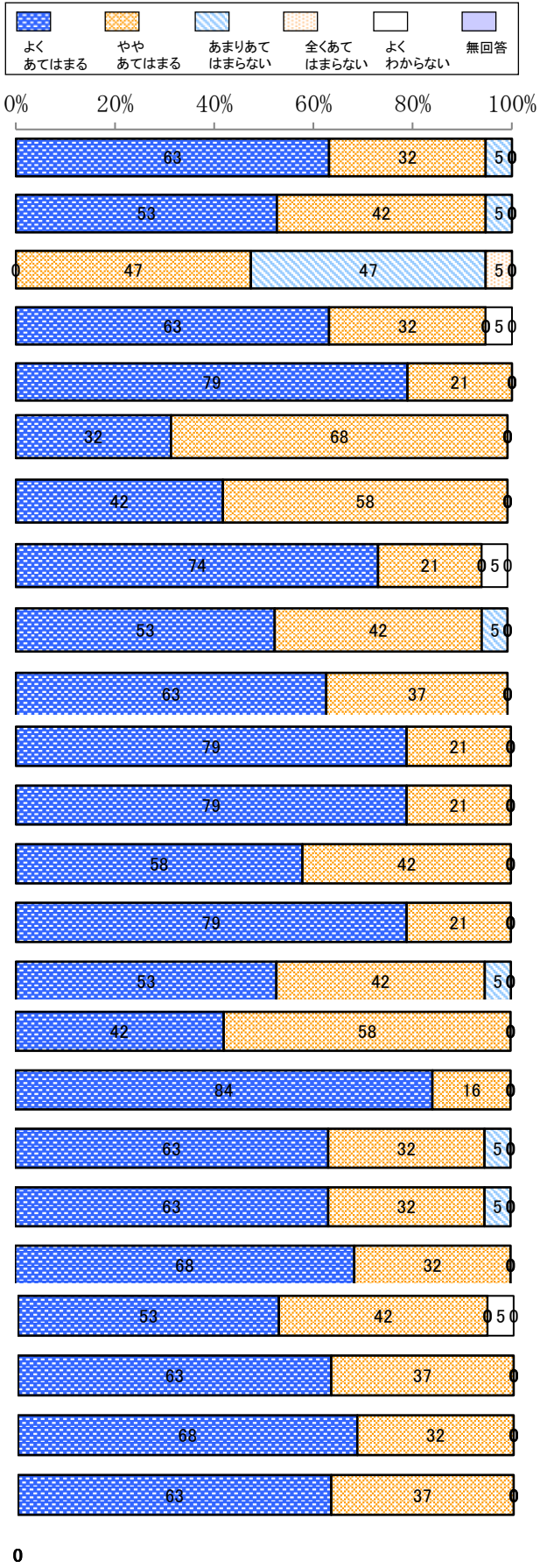
令和7年度『学校評価アンケートの結果』と『自己評価』

荒川区立第五峡田小学校

様式4

アンケートの結果			上段：児童 下段：保護者等 グラフ：教職員						
			A	B	C	D	よく分らない	無答	
学校全体の様子	1	教育目標・方針	児童・生徒や保護者等と共有できるように学校の教育目標を示し、方針を説明している。	41 37	44 52	9 5	1 2	4 4	0 0
	2	児童・生徒の様子	児童・生徒は、明るく素直で、生き生きとした楽しい学校生活を送っている。	61 36	31 57	5 6	1 0	2 0	0 0
	3	基本的生活習慣	児童・生徒の服装や通学態度、挨拶など基本的生活習慣がしっかりしている。	43 29	43 57	10 10	1 2	2 1	0 0
	4	児童・生徒理解	児童・生徒の良さや努力しているところを見つけ、励まし、理解しながら一人一人の能力を伸ばすように努めている。	39 38	42 49	13 9	2 2	4 3	0 0
	5	健康・安全・安心	児童・生徒の健康や安全（確保・対策）に配慮するとともに、主体的に行動できる防災教育を充実している。	49 38	36 50	9 4	3 0	3 8	0 0
学力向上の取組	6	分かる授業	楽しく分かりやすい授業が実践されている。	48 32	39 49	8 8	3 2	2 9	0 0
	7	個に応じた指導	習熟度別学習等、児童・生徒一人一人の理解の程度に応じた学習指導が行われている。	54 31	35 46	7 8	2 1	2 13	0 0
	8	学習習慣	放課後の補充指導等を行うとともに、家庭での学習課題を提示する等、学習習慣の定着を図る工夫をしている。	53 28	26 47	14 8	4 2	2 14	0 0
	9	情報教育	タブレットPCなど、ICT機器を活用した教育を推進しながら、情報活用能力の育成に向けて取り組んでいる。	57 32	31 49	10 8	1 3	2 8	0 0
	10	学校図書館の活用	読書と学習に役立つ学校図書館として活用されている。	42 34	32 46	21 6	3 2	2 12	0 0
社会性・人間性の育成	11	人権教育	自他を大切にし、偏見や差別を許さない豊かな人権感覚を育てる教育を行っている。	65 27	30 51	3 9	0 1	1 12	0 0
	12	道徳教育	生命を大切にする気持ちや他人を思いやる心、善悪の判断や規範意識を育てる等、道徳性をはぐくむ教育を行っている。	37 27	44 53	13 8	2 1	4 11	0 0
	13	教育相談	教育相談を充実し、いじめや不登校を防止する等児童・生徒一人一人の居場所がある学校づくりに努めている。	49 24	26 42	13 9	6 2	6 23	0 0
	14	人間関係づくり	学校行事等の教育活動を工夫し、体験活動を充実させながら望ましい人間関係が築けるよう取り組んでいる。	73 33	22 55	3 6	1 1	1 6	0 0
	15	自治的な活動	学級活動や児童会・生徒会活動等で、児童・生徒が自発的・自治的に活動できるように工夫しながら指導している。	53 31	35 50	9 6	1 0	2 13	0 0
保護者・地域との連携	16	情報発信	学校便りや学年便り、学校ホームページ等で、保護者や地域の方に、学校の教育活動の様子を分かりやすく知らせている。	47 38	26 49	10 6	4 3	14 4	0 0
	17	相談への対応	児童・生徒や保護者からの連絡や相談を丁寧に受け止め、適切な対応をしている。	48 38	35 47	9 6	3 2	5 7	0 0
	18	学校への参加	学校公開週間や土曜授業日、学校行事等では、保護者や地域の方が参加しやすいように工夫している。	55 47	24 44	13 4	4 0	3 4	0 0
	19	地域との連携	地域の行事などに協力的で、連携を図っている。	36 26	38 42	17 3	7 0	2 29	0 0
	20	意見の反映	保護者や地域から寄せられた意見や要望を受け止め、学校運営と教育活動の改善に努めている。	48 25	35 42	5 5	3 1	9 27	0 0
各学校の特色ある教育	21	家庭学習	学校は、家庭と連携を図りながら、家庭学習を進めている。	48 26	33 53	9 11	2 2	8 8	0 0
	22	情報モラル	学校は、ご家庭でのゲーム、テレビ、携帯電話、パソコン等の使い方やその使用制限、及び児童の情報モラルについて指導している。	49 31	31 51	9 6	3 2	7 10	0 0
	23	体力向上	学校は、ペーランニングや長縄週間など、体力向上に向けて教育活動を計画している。	68 43	25 49	4 5	1 0	2 3	0 0
	24	学習準備	学校は、児童が忘れ物をせず学習に臨むことができるようにするなど、配慮や指導をしている。	56 32	33 54	6 7	2 1	4 6	0 0

無効票を除く（％）



無効票を除く（％）

学校の自己評価（考察）

児童、保護者の８５％が、よくあてはまる、ややあてはまると答え、教育目標の周知はできている。あまりあてはまらないと答えた教職員が１５％となった。

昨年度に引き続き、肯定的な回答が８０％を超え、多くの児童が学校生活を楽しそうに送っていることが分かった。全くあてはまらない、よく分からないと答えた児童が数名いるので、面談などを利用し、児童理解にさらに努めていく。

前年度に引き続き、児童、保護者は肯定的評価が多く、教職員は否定的評価が多かった。認識の違いがあることが要因なので、学校での様子を保護者に粘り強く伝え、基本的生活習慣について児童、保護者と共通理解を図っていく。

あてはまる、ややあてはまるが、児童、保護者ともおよそ８０％だった。１５％の児童が、ややあてはまらない、あてはまらないと答えている。教職員はさらに児童理解に努めていく。

防災教育の充実について肯定的にとらえる人数が増えた。児童・保護者のおよそ８５％が肯定的に捉えていることが分かった。数年前からオンラインによる視覚的に分かりやすい安全指導にした成果が出ていると感じる。

８０～９０％の児童・保護者が分かりやすい授業が実践されていると回答している。校内研究のテーマに位置付け、学校は誰にでも分かりやすく楽しい授業を目指し授業改善をさらに推進していく。

校内研究で特別支援教育の視点に立った授業改善を目標に、学校全体で指導を２年間続けたことで、よくあてはまると回答した児童が昨年度、一昨年度と徐々に多くなった。あてはまらない、よく分からないと答えた保護者も９％いるので、研究の成果を学校だより、学年だより、保護者会等で周知していく必要がある。

１８％の児童が工夫をしているということに否定的な回答であった。教員は工夫しているということに肯定的な回答であった。家庭学習の取り組み方や効果について、児童や家庭に周知していく必要がある。

児童・保護者共にタブレットPCを使用している学習には肯定的な意見が８７％。どの学年もまんべんなくICT機器を活用した授業や家庭学習の充実をすすめていくために、校内研究や研修を充実させていく。

児童の２４％が否定的な回答をしている。学校全体としては、図書への関心が高まっていると感じる。児童の意欲に沿うべく、司書教諭、学校司書と協力して調べる学習を進めたり、読書チャンピオンカードを活用した読書活動に加え、授業でもさらに活用していくよう年間学習計画等に位置付ける。

９５％以上の児童、教職員は本校の人権教育には肯定的な意見を寄せている。保護者にも協力いただいて取り組んでいる、ふれあい標語を継続的に行ったり、道徳や学級活動等で人権課題を取り上げた実践を通して、偏見や差別を許さない態度を育てていく。引き続き、学校だより等を活用して伝えていく。

児童の否定的な意見が１５％であった。授業の工夫や評価を行っていることで、日頃の授業改善から意識を高め、道徳性を育む教育を一層推進し、実践的な行動として現れるよう、教育課程全体で取り組む。

保護者の否定的評価は１０％、よくわからないは、２３％と高く、スクールカウンセラーや関係機関と連携し、教育相談に取り組んでいく。また、必要に応じて児童一人一人の面談も行う。

児童・保護者・教員ともに９５％以上の肯定的な評価であった。運動会や学芸会をはじめ、多くの対策を講じて学校行事を進めることができた。保護者や地域の方々にも学校側の対応を理解してもらい、協力を得ることができた。

あてはまる、ややあてはまるが、児童、保護者とも９０％を超えた一方、１５％の教職員が当てはまらないと回答していた。学級活動、委員会活動、行事などで計画的な企画運営をし、自治的な雰囲気を広めていく。

否定的に回答する児童、保護者の割合が１０ポイント程度いる。より一層学校ホームページの更新率を高め、スクリーンを有効活用し、保護者や地域の方に学校の様子を知っていただく機会を増やす。

昨年度に引き続き、児童、保護者のそれぞれ１０％が否定的な回答を答えている。あてはまる割合を増やすため、一人一人の児童理解に努め、保護者の要望により一層耳を傾け、教育活動を行っていく。

土曜授業日は減ったものの、児童、保護者、教職員すべてで、肯定的な評価が８０％以上である。学校公開週間や土曜公開日の周知を徹底し、より充実した授業の公開に努める。

よくわからないと回答した保護者が３０％程度いる。あまりあてはまらないと答える児童が１０％程度減った。地域行事への参加にはコロナ禍以前のように復活したことが理由と考えられる。引き続き地域との連携をすすめ、新しいつながりも作っていく。

教職員は地域や保護者の意見や要望を受け止めながら教育活動を行っているとい回答しているが、よくわからないと回答した保護者が２７％いる。今後も地域や保護者の意見や要望を受け止めながら教育活動を進めていく。

学校は児童の発達段階に応じた指導・支援を進めているが、否定的な回答した保護者の割合が、１３％であった。児童の否定的な回答も８％いた。保護者会などで、家庭により一層家庭学習の意義や方法を伝えていく必要がある。

保護者の中で否定的な回答は減ってきている傾向にある。引き続き家庭でのゲームや動画閲覧の時間設定には各家庭に任せているところがほとんどであり、学校からも指導していく。また、外部講師などを積極的に呼び、情報社会の変化について指導していく。

児童、保護者、教職員ともに肯定的な回答が９５％を超えた。職員の所感としてもよく取り組んでいるように感じる。

生活指導で持ち物チェックを継続することで、児童、保護者ともに否定的な意見が１０％以下である。アンケート結果だけではなく、忘れ物を減らそうという雰囲気になっている。できたことも保護者や児童に伝えていきたい。